



アマダ兵庫県支部便り



Vol.4 2013.4～2014.3 アマダ兵庫県支部

☆いつもご支援いただきありがとうございます☆
☆アマダ兵庫県支部はネパール子ども病院の支援を柱に、2013年度はこんな活動をしました☆

シッダールタ母子専門病院（通称、ネパール子ども病院）15周年記念式典および患者家族棟の開所式に参加して

アマダ兵庫県支部支部長 江口貴博

阪神淡路大震災の時に頂いた支援のお礼をしようと、1998年11月に建てられたネパール子ども病院は、2003年に篠原記念小児病棟を増築し、さらに2013年には周産期病棟を新築した。この15年間で病院の医療についての機能は改善し、その間にネパールの乳幼児死亡率はほぼ半減するに至ったが、患者さんに付添う家族の環境はまだ厳しいものであった。この度、アマダ兵庫県支部では、付添う家族のための患者家族棟の建設を計画したところ、多くの企業、個人の賛同が得られた。その資金を使ってこの度、患者家族棟が無事オープンの運びとなった。今回、平成26年1月17日、阪神淡路大震災19年目の日に現地で行われた、ネパール子ども病院15周年記念式典および患者家族棟の開所式に参加するため、現地を訪問した。



平成26年1月16日0時30分発、関西国際空港発バンコク経由カトマンズ行きタイ航空でネパール入りし、同日夕方の国内線にてブトワールに到着。1月16日夜、現地の商工会議所およびネパール子ども病院スタッフ主催の晩餐会に参加、親睦を深め、また今後の病院運営について活発に議論した。その後、夜の病院を視察したところ、患者さんのご家族が小児病棟や産科病棟の床で寝ている様子が見られ、同行した院長から「今回の患者家族棟建設によりご家族の方々の環境改善が得られる」との期待が寄せられた。



翌1月17日朝から、外来棟の2階にて15周年記念式典および患者家族棟のオープンセレモニーが始まった。国歌の斉唱に続き、阪神淡路大震災で亡くなられた方に全員で2分間の黙祷を捧げた。来賓および院長の挨拶の後、患者家族棟へと移動した。患者家族棟には、今回の趣旨と寄付者を記載した銘版が埋め込まれており、その除幕式を行った。その後、玄関のテープカットを江口が行い、正式に患者家族棟がオープンした。全員で患者家族棟を視察した後、再度式典会場に戻り、江口からアマダ兵庫県支部を代表して英語でスピーチを行い感謝

の気持ちを伝え、今回の建設にあたり功労のあった方々に江口より感謝状を手渡した。また式典では、病院スタッフの表彰等も行われ、病院運営が順調である様子がかがえた。最後に、ブトワール市の市長代理の方から、アマダ兵庫県支部に対し感謝状を頂き、また記念品として仏像を頂いた。盛会の内に会は終了した。

午後は、少ない時間を利用して患者家族棟と新たにオープンした産科病棟を取り急ぎ視察後、国内線に乗ってカトマンズに到着。AMDAネパール支部のメンバーとの晩餐会に参加し、親睦を深めた。カトマンズに宿泊後、翌日の帰国便に乗り込み、1月19日バンコク経由で関西国際空港に到着した。

今回の訪問により、この式典を阪神淡路大震災の日に行う事で、病院ができたきっかけをネパールの方々に思い起こしてもらった。また、新たにできた患者家族棟に対するネパール人の思い、期待を押し測ることが出来た。これからも、患者家族棟の運営状況を見守っていく予定である。

この5年間で4回、前回から1年半ぶりの病院訪問でした。振り返ると、初訪問は2001年でした。2013年までの間に、外来棟、管理棟、送迎バス等のガレージなど増設されました。また2013年11月には周産期病棟（日本のODAで）が、2014年1月に患者家族棟（アムダ兵庫県支部で）がオープンしました。随分大きくなりました。

周産期病棟は1Fに産科病棟（陣痛室、分娩室、病室）、2Fに手術室、術後病棟、NICUです。酸素の中央配管、壁には心電計モニター、インフュージョンポンプがずらり、手術室も広く明るくなりました。少し近代的になったようです。

白い、明るいイメージの日本の病院とは異なり、外観はレンガ造り、病室のカーテンは緑、部屋の中が暗く感じます。病院周囲は病院のシーツ（紫や緑）、手術衣等、患者さんの衣類が干されカラフルです。

入院すれば食事は提供されることが当たり前の日本。発展途上国はほとんどそういうサービスは存在しません。子どもはいつ・何を食べているのだろうか？栄養は足りているの？などの疑問は今なお継続中です。付き添いの家族は院外の芝生に座って食事しています。時には簡易釜戸を作り、食事の支度をしている光景をよく目にしました。廊下や待合スペースに家族がいっぱい。布団もいっぱい。時には鍋も見られます。こんな光景がアムダ兵庫県支部で患者家族棟開設支援のきっかけです。円安の影響で計画よりも予算オーバーしたのも痛かった。患者家族棟は1Fに病院職員、家族利用のレストラン、2Fは宿泊施設（有料）、2014年1月17日から運営開始です。廊下の家族が利用してくれることを願っています。



もう一つの日本の当たり前。ベッドを囲うカーテン。ここにはありません。自然な好みのスタイルでの分娩も隣の人から見えています。プライバシーの保護は訴え続けていますが、未だ実現しません。

手術室、術後病棟の前のスペースの床の上に毛布にくるまれた赤ちゃんが寝ていました。なぜ？

この赤ちゃん、帝王切開で生まれました。母親は術後病棟に入院、入院の必要のない元気な赤ちゃんは祖母の手へ。・・・行き場のないおばあちゃんは孫と一緒に泊まり込み。11月の朝晩は冷え込みます。毛布1枚で大丈夫かな？心配だ。遠い村からやって来て、医療保険もなし。これが現実です。

医療・看護サービスは以前と変化がないようである。物の与え過ぎ、手の出し過ぎは自立や向上心の弊害になっているのではないかと頭の中をよぎった。今後の支援の方向として看護サービスのレベルアップ・自立を考える中で重要なことは支援相手の異文化（衛生観、価値観、教育背景、習慣・風習・因習など）の理解と受容である。日本の尺度を押しつけない今後のサポートのあり方・方略を考えさせられた訪問でした。

東日本支援活動 in 雄勝

アムダ兵庫県支部副支部長 鈴記好博

2013年10月12日～14日の3日間、宮城県石巻市雄勝に行ってきました。住民の皆様に出発の機会を提供し、神戸・淡路と雄勝との被災地間交流、雄勝住民同士の交流、心身の健康増進を目的に、名振コミュニティセンター、荒地区老人憩の家、羽振地区老人憩の家、立浜仮設住宅談話室、大須地区老人憩の家の5か所でシニアヨガ、ハンドマッサージ、肩マッサージ、ネイルケア、タコ焼きなどを食べながらのお茶っこ会を行いました。

アムダ兵庫県支部からは9名が参加し、現地では当時雄勝診療所所長に就任していましたアムダ兵庫県支部の小倉健一郎先生とアムダ本部の大政朋子さん、そしてシニアヨガを始め今回のプログラムにご協力頂くNPO法人日本ヨガ連盟の皆さまと合流し、楽しい活動となりました。5か所で69名の住民の方が御参加下さり、おいでいただいた方々には大変喜んで頂けました。また雄勝診療所では、清掃、看板補修などを行いました。



被災より3年たった今、短期の訪問では、なかなか十分な支援は困難かと思われませんが、今後も被災地を訪れ、現地の方々との交流を継続していきたいと考えております。

「アースデイ神戸 2013」は5月の温かい屋外で開催され、とても気持ちがよく多くの方がAMDAのブースに来てくださいました。私たちはハンドマッサージを通してたくさんの交流をしました。その中で国際ボランティアや海外生活の体験談をお話いただきました。



またこの活動は私たちが大学やAMDAのみなさんから学んだことを発信する場でもあり、もっと国際ボランティアや国際交流を学び関わっていきたくと改めて思いました。

今後もこのような活動を通して学び、交流をしていきたいです。

11月3日、長田区六間道商店街で開催された「ママの夢フェス！！メルレーブ」に参加しました。ステージやワークショップ、手作り品の販売などを通じて子育てを応援し、一緒に頑張ろうという人達の熱気で盛り上がりました。アムダ兵庫県支部もネパールグッズの販売やハンドマッサージを行い色々な方と交流でき活動のことも知っていただくことができたかと思います。



あいにくの雨模様でスタートし、震災の後きれいに整備された商店街も空き店舗が目立ち少し寂しい印象もありましたが、集まった人々のパワーは頼もしく終わる頃には豪雨になっていたもののアーケードの下はみんなの熱気で盛り上がり終了を迎えました。

1回に交流できる人の数はそんなに多くはないですが、機会を増やして少しずつ輪を広げて行けたらと思います。

雄勝診療所所長を終えて

東北津波震災から3年が経ちました。

私はこの3月一杯で石巻市「雄勝診療所」を退任し、関西に戻ってきました。震災後の2011年9月に、津波によって医療機関が失われた石巻市雄勝町に赴き、雄勝診療所を立ち上げました。もともと4300人が住んでいた町の大半が津波で流され、住居を失った3000人が町を離れ、残された1100人の住民は医療機関の再建を待ちわびていました。食堂はおろか、コンビニも郵便局も学校もガソリンスタンドもほとんどに何もない中で、最初に診療所が作られました。

当初「1年間くらいでいいかな。」といった軽い気持ちで東北へ行き、診療所長になりました。実際に診療を始めてみると、生活環境の悪い中で懸命に生きている住民の大きな期待を感じ「とても1年では戻れない。」と覚悟し、少し腰を落ち着けて頑張ってみようと思いました。日々の診療は、ほとんどが高齢者の慢性疾患に対するケアと訪問診療による地域医療が中心でしたが、町で唯一生き残った特別養護老人ホームの嘱託医になったり、学校医をやったりと、思いのほか忙しい診療になっていきました。診療以外では、開院当初よりたくさんの人の来訪を受けて、平日は診療と来客対応、週末もほとんど来客を案内する日々が続きました。その合間にも、何か被災地の復興に取り組もうと、様々な企画を考え、休みなく活動してきました。復興支援活動では、診療所での餅つき大会、BBQ大会の開催、鯉のぼりを町中に揚げたり、クリスマスにはイルミネーション付きの大きなクリスマスツリーを作ったりと殺風景な町を明るくする活動をしたり、他のNPO団体と一緒に廃校の再建や様々な復興支援に携わりました。また被災地を支援しようと思っている外部の方々の窓口になって、支援物資を受け取って配布したり、支援者を地元の人に紹介したりと、外から来た人間として「人と人を繋ぐ」役割を担っていました。

震災から3年経って、町が復興してきたかと言えば、まだ全く変わりのない状況です。何もない状態はほとんど変わっていないし、住民の生活は不便なまま、仮設住宅での生活は少なくとも2年くらい続きそうで、まだまだ息の長い支援を必要としています。

ただ診療所のほうは2年半が過ぎ、落ち着いてきたので、私は一旦被災地を離れることにしました。幸い、交代の医師として、もともと石巻市立病院におられた経験豊かな先生に来て頂けることになったので、診療所は安心して引き継いで貰うことが出来ました。



小倉健一郎



私はこれからもアムダ兵庫県支部メンバーとともに、被災地支援を続けていきますので、会員の皆様にも引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アムダ兵庫県支部写真展（兵庫医療大学内にて）

2013年1月から、ポートアイランドにある兵庫医療大学の地域連携室でアムダ兵庫県支部写真展を開催してきました。現在第8回目を掲載しています。これからも引き続きAMDA兵庫の活動を掲載していきます。同時に一緒に活動するメンバーを募集しています。詳しい内容は、AMDA兵庫HPをご覧ください。



支部長便り

江口貴博

いつもアムダ兵庫県支部の活動にご理解とご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。皆様のご支援のお陰で、アムダ兵庫県支部が主体となって建設を進めた「患者家族棟」も今年1月17日の震災の日に現地で開所式を行い、正式にオープンすることができました。

AMDAグループ内では、昨年5月にAMDAが認定NPO法人に、12月にはAMDA社会開発機構も認定NPO法人に認定され、各法人が独立運営の強化をはかることで、グループとしてより良い活動を実践していく方向に進んでいます。そのような折、AMDAグループ菅波代表から兵庫県支部も新たに立ち上げて数年のうちにNPO法人にしてはと提案頂きました。そのような方向性をアムダ兵庫県支部運営委員会で話し合った結果、アムダ兵庫県支部を母体にして、新たな任意団体として独立し、そしてAMDAグループの中の新たな法人を目指して努力していく事で意見の一致を見ました。

私たちはまだまだ未熟者ではありますが、これまでの16年の経験を生かして、さらに高い所を目指して頑張ろうと歩みを始めました。アムダ兵庫県支部としては一旦解散し、新たに「AMDA兵庫」として再出発いたします。新しい任意団体となりましても、これまでと変わらずご支援を賜りますようお願い致します。

＝アムダ兵庫県支部活動記録【平成25年4月1日～平成25年3月31日】＝

平成25年 4月 1日～平成26年3月31日 昨年度より継続
兵庫県支部写真展開催—兵庫医療大学地域連携室に於いて（桂木、藤本）
平成25年 5月 4日・5日（祝） アースデイ神戸 参加
（中山、鈴記、早瀬、桶川、竹中、藤本、岩村、原田、平尾、神女クラブ荒木、神女クラブ余頃）
平成25年 6月 2日 二見ボウルチャリティーボーリング大会（江口）
平成25年 9月 8日 二見ボウルチャリティーボーリング大会
（江口、中田、中山、鈴記、桶川、早瀬、藤本）
平成25年 9月23日 岡山アムダ本部会議出席（江口、中山、桶川、藤本）
平成25年10月11日～15日 東日本支援活動 雄勝訪問 —たこ焼き、ハンドマッサージ、ヨガ、お茶っこ
（中山、小倉、鈴記、桶川、小林真也子、早瀬、藤本、相羽、原田、平尾）
平成25年10月28日～11月7日 ネパール子ども病院訪問（神徳規子）
平成25年11月13日 ママの夢フェス参加 — 神戸市長田区（鈴記、早瀬、藤本、原田、中田、岩村）
平成25年11月14日 講演会 大阪ガス本社に於いて（江口）
「AMDAネパール子ども病院15年の歩み～阪神淡路大震災の支援のお礼をしよう」とできた病院
平成26年 1月16日～18日 ネパール子ども病院 患者家族棟開所式典参加（江口）

＝ネパール支援 ご寄付（敬称略）【平成25年4月1日～平成26年3月31日】＝

スガファーマシー、大阪ガスともしびクラブ、ダ・カーポ音楽事務所、神戸市薬剤師会、藍の都脳神経外科病院
島村和行、育波薬局、パール薬局、桶川勝記、鈴記好博、小林真也子

AMDA兵庫：所在地 〒673-0896 明石市日富美町5-16ハリマビル3階 にじ作業所内

メールアドレス amdahyogo@yahoo.co.jp

定例会 毎月第一土曜日 毎日新聞社神戸支局 3階会議室にて